

浜松市デジタル・スマートシティ 官民連携プラットフォーム 第3回運営委員会

令和4年12月22日



1 開会

2 取組状況、各種動向

3 意見交換

(1) DX推進に関する静岡県内企業の意識調査について

(株)帝国データバンク 浜松支店長 森晴朗 氏

(2) 中小企業のDX支援について

①市の取組について

②金融機関における取組について

③ハマロボ展の開催について

④「DX経営塾」の開催について

4 閉会

あいさつ



委員長（浜松市副市長） 山名 裕

パートナー会員紹介

パートナー会員の概要

4



アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社

NO IMAGE

本拠所在地	〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-1-1. 目黒セントラルスクエア
URL	https://aws.amazon.com/jp/
代表者	長崎 忠雄
設立年月	2009年8月
業種	クラウドサービス
事業概要	✓ Amazonが総合オンラインストアの展開で長年培ってきたクラウドコンピューティング技術から生まれたアマゾン ウェブ サービス (AWS)。
関心のある分野	モビリティ / 防災・安全 / 健康・医療・福祉 / 農林業 / 教育・子育て / 観光・商業 / デジタル・ガバメント
協力内容	✓ 【PF】本プラットフォームのデータ連携基盤を活用した実証実験プロジェクトにおけるAWS Startup Rampとの連携 ✓ 【会員】AWS Startup Rampプログラムを通して、各企業のニーズに応じた無料利用クレジットの提供

株式会社村田製作所



本拠所在地	京都府長岡京市東神足一丁目10番1号
URL	https://www.murata.com/ja-jp
代表者	代表取締役会長 村田 恒夫 代表取締役社長 中島 規巨
設立年月	1950年12月23日
業種	総合電子部品メーカー
事業概要	テレビ、PC、スマートフォンなど、ムラタの電子部品は身の回りのあらゆる電子機器に使われ、豊かな暮らしの実現に貢献してきました。通信、モビリティ、環境、ウェルネスなど、拡大するエレクトロニクス領域においてもInnovatorとして今後も新しい価値を提供していきます。
関心のある分野	エネルギー/モビリティ/防災・安全/健康・医療・福祉/農林業/教育・子育て/観光・商業/産業（ものづくり/デジタル・ガバメント）
協力内容	【会員】センサプラットフォーム「Pifaa」の提供 https://solution.murata.com/ja-jp/service/pifaa/ ・Edgeデバイス先着100台（クラウドサービス含む、各センサは3種まで）を半年間無償提供いたします。 ・無償利用の場合は、3か月時点で中間報告、半年後に最終報告をお願いいたします。

1. 会議参加時

- 基本的に「ビデオはON」、「音声はOFF（ミュート）」

2. ご発言時

- オンラインでの参加者
「音声をミュート解除」し、最初にお名前をお伝えいただいたのちにご発言ください。
- 現地参加者
テーブルのマイクにてご発言ください。

2 取組状況、各種動向

(1) “デジタル・スマートシティ浜松” ウェビナーシリーズ

分野間連携の取組等を紹介する「ウェビナー」を、年4回開催。

＜スケジュールと紹介分野＞



主催：浜松市、官民連携PF 対象：どなたでも視聴可能（無料）

第2回 ～マイナンバーカード活用による利便性向上と地域活性化～

令和4年12月14日（水）10：30-12：00

参加申込者：124名

趣旨説明

浜松市デジタル・スマートシティ推進課

講演

「マイナンバーカード活用により目指す社会」

浜松市フェロー

× ID株式会社代表取締役CEO 日下 光 氏

取組紹介

①「健康増進、交通分野、域内経済循環における
マイナンバーカードや自治体マイナポイント、
デジタル地域通貨の活用」

フェリカポケットマーケティング株式会社
代表取締役 納村 哲二 氏

②「母子手帳×マイナンバーカード」

日本コンピューター株式会社
ヘルスプロモーショングループ
課長 櫻井 勇輝 氏

パネル ディスカッ ション

▼登壇者

日下 光 氏、納村 哲二 氏、櫻井 勇輝 氏、
瀧本 陽一 氏

▼ファシリテーター

(株) HEART CATCH 西村真里子 氏



浜松デジタル・スマートシティMONTHのHPにて、
当日の動画と資料を公開しています。

<https://www.month.hdsc.city/webinar/2022-1>

(2) PF会員によるソリューションピッチ

第2回PF会員によるソリューションピッチ

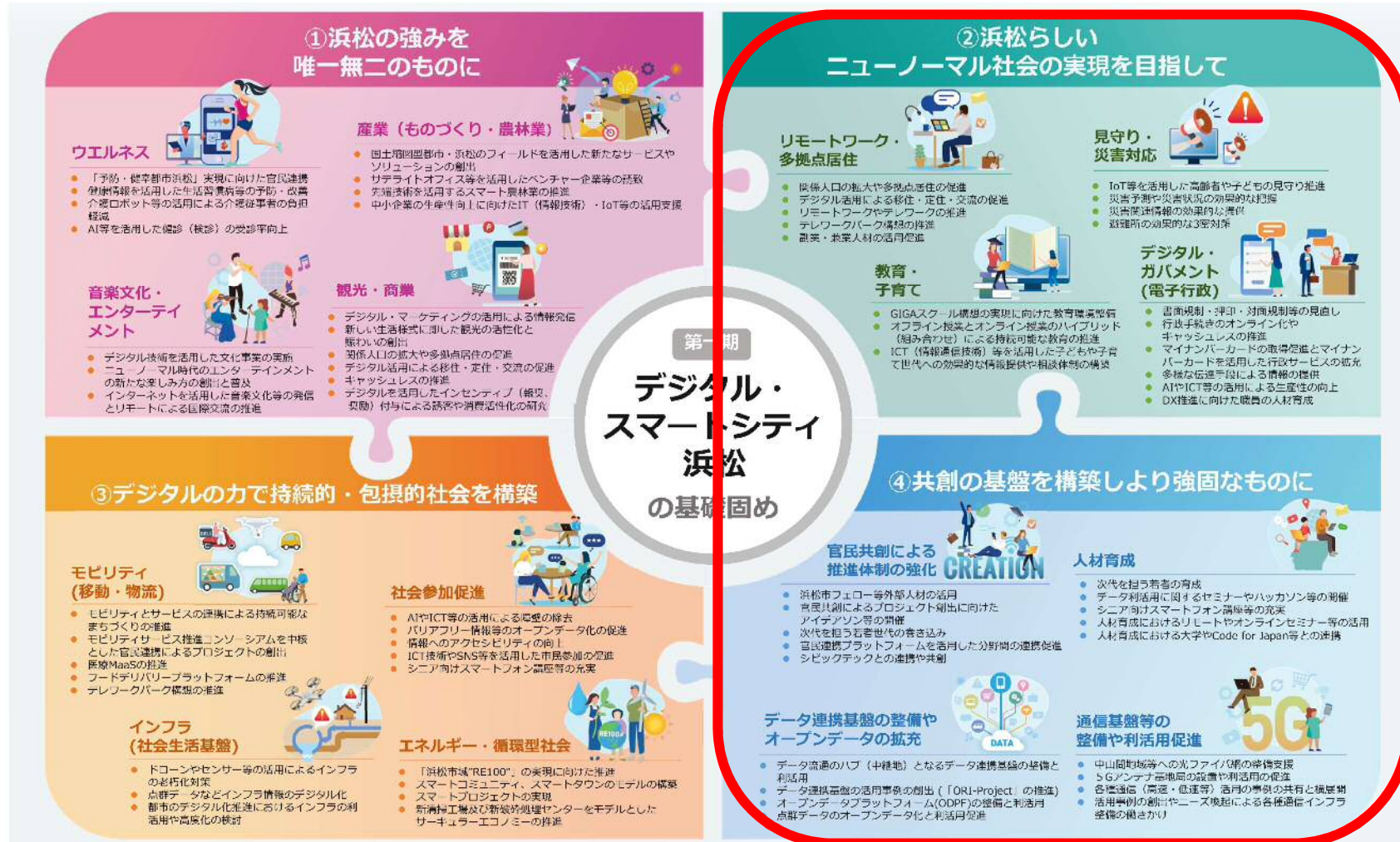
- 今年度第2回のソリューションピッチは、デジタル・スマートシティ構想第一期重点分野の中から、「教育・子育て」「見守り・災害対応」「人材育成」などのテーマを設定し、開催予定。

令和5年2月10日(金) 13:30-16:00

登壇団体：PF会員 視聴参加者：PF会員及び浜松市各課

登壇者、募集中

※12月28日まで



(3) 教育・子育て分野の取組状況

■取組名称

「GIGAスクール構想」の実現<小中学校>（ICT教育推進担当課）

■背景・目的

- ・多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境の実現
- ・これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

■取組概要

- ICT支援員の配置(R3～5年度)
 - ・ICT機器を活用した授業支援
 - ・長期的なICT機器活用能力育成支援
- 教員への研修・指導
 - ・教育センターでの各種研修
 - ・教育の情報化推進リーダーの育成
 - ・各種マニュアルの整備
 - ・先進的な事例紹介
- ICT環境の整備
 - ・ネットワーク環境整備の拡充
 - ・特別教室への無線アクセスポイント常設

■関係課

指導課・教育センター

■今後に向けて

- ・ICT環境の検討・整備
- 「統合型校務支援システム」「ネットワーク分離」

■取組概要図（イメージ）

充実した支援体制で学習の基盤となる情報活用能力を育成

浜松市情報活用能力育成目標

「基本的な操作・活動スキル等」「問題解決・探究に関するスキル」「情報活用の態度・モラル」の3観点について市独自の目標を設定

ソフト・ハード両面からの支援により指導の改善・充実を図る



■取組名称

I C Tを活用した教育活動等の充実＜小中学校＞（教育施設課・指導課・教育センター）

■背景・目的

- ・1人1台端末で「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善
- ・端末と学習アプリの一体的な整備によりICTを効果的に活用した学びの実現
- ・多様な児童生徒の学習支援や指導の充実

■取組概要

～「使ってみる」段階から「より効果的な活用」へ～

- 『協働的な学び』の実現
 - ・学習アプリの活用推進により、児童生徒が多様な考えや意見を共有し、協働によるより良い学びの実現
- 『個別最適な学び』の実現
 - ・学習アプリの活用推進による、個に応じた「指導の個別化」や興味・関心に応じた「学習の個性化」を実現
 - ・ドリルアプリの活用による個の学習の効率化
- 学びの保障のためのICT活用
 - ・緊急時ややむを得ず登校できない児童生徒への対応
- 情報モラル教育の充実
 - ・情報モラル指導カリキュラム・教材の提供

■取組概要図（イメージ）



■今後に向けて

- ・情報活用能力（情報モラルを含む）の育成及び指導の改善・充実
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けたICT活用
- ・児童生徒の心のケアのためのICT活用（いじめ相談アプリ・アンケート）

■取組名称

- 1 SNSを活用した若者相談支援事業（次世代育成課）
- 2 子育て情報ポータルサイト管理運営事業（子育て支援課）

1 SNSを活用した若者相談支援事業

電話相談等に踏み切れない若者への支援のため、SNS(LINE)を取り入れた相談を実施することで、困難を有する若者への早期介入・早期支援につなげる。

■取組状況（概要）

①相談の受付

- 受付期間 令和4年8月1日(月)～令和5年3月30日(木)
毎週月・木曜日（祝日・年末年始を除く）
- 相談時間 午後6時から午後10時
- 対象者 浜松市に在住又は通学・通勤する子ども・若者
（15歳から39歳まで）及びその家族等
- 実績 11月末時点で全相談件数1,117件
うち、LINE 相談は900件（約80%）

＜効果＞ LINEの導入による若者本人からの相談の大幅増

②相談対応内容（主なもの）

健康関係 約16% 対人関係 約16% 仕事関係 約15%
家庭関係 約13% 学校関係 約9% 等

2 子育て情報ポータルサイト管理運営事業

官民問わず市内の子育て情報を提供している、浜松市子育て情報サイト「ぴっぴ」を再構築し、オープンデータに対応したシステム構築や、チャットボットを主体とするICT関連サービスの整備・提供を行う。

■取組状況（概要）

①子育て情報ポータルサイトの再構築

- 「オープンデータ自動反映機能」の導入
- 「マイページ機能」の導入

＜効果＞ アクセス、ページビュー件数の大幅増（4～10月）

- ・ 訪問者数が前年比1.6倍
- ・ ページビュー数が前年比1.3倍

②ICT関連サービスの整備・提供

- 「チャットボット機能」による自動応答（入園手続き等）
- 「プッシュ通知機能」による情報発信

＜効果＞ 既存コンテンツの活用（4月～10月）

- ・ はまずく Q & A ページビュー数が前年比5.4倍
→LINEアカウントの配信による誘導効果

■今後に向けて

- 1 SNSを活用した若者相談支援事業
令和5年度は、進学進級・入社等、若者が悩みや不安を抱えがちな時期に寄り添うため、相談開始時期を早める。
- 2 子育て情報ポータルサイト管理運営事業
 - ・ サイトのアクセス状況等を分析し、掲載情報等の精査を行う。
 - ・ チャットボットサービスの回答データを蓄積・分析することにより、回答の精度を向上させ、市民ニーズの把握に努める。

(4) 防災・安全分野の取組状況

■取組名称

ドローンを活用した浸水エリアの推定（ファンドサポート実証実験事業）

■背景・目的

大雨等の災害発生時に迅速かつ正確な被害状況を把握し、円滑な被災者支援などを行うため、SNSの情報収集や自立飛行のドローンを活用した災害時の官民連携体制の構築、さらには民間同士の技術協力の場を設け、発災初期の防災対応力向上に貢献する。

■取組概要

SNS情報収集サービスから、被害投稿の情報をCSV出力し、位置情報を基にGIS（地理情報システム）を用いて過去浸水エリアに重ねて被害位置を特定し、自立飛行ドローンによって撮影する。

このドローンの撮影データから浸水エリアを推定する。

■取組概要図（イメージ）



■今後に向けて

この実証実験を行うことにより、迅速な被害棟数や被害規模の把握などの有効性について調査・研究をする。

(5) 講師派遣制度

講師

派遣先の対象

講義内容

-
- A stylized illustration within a light blue circular frame. At the base is a large teal silhouette of a human head in profile, facing left. Perched on the head are two figures: a child on the left and an adult on the right. The child, wearing a red shirt and brown shorts, sits on the forehead area and uses a yellow laptop. The adult, wearing an orange sweater and dark pants, sits on the crown area and uses a black tablet. Surrounding the figures are various digital and technological icons: a red location pin at the top, a yellow envelope at the top right, a green speech bubble at the middle right, a magnifying glass at the middle left, and three white gears at the top left. In the background, behind the figures, is a light blue wireframe globe.

スケジュール

2022年度											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
講師募集											
	派遣先募集										
開催											

講座一覧（令和4年12月8日時点） ※団体名50音順

No.	講座名	講師団体
1	スマート林業の現状と今後の展望	静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター
2	ミライの社会を覗いてみよう！	ソフトバンク株式会社
3	予測不能なICT時代を生きるために必要なこと	株式会社ドコモビジネスソリューションズ 静岡支店
4	ドローンの未来について	株式会社トラジェクトリー
5	デジタルデータの活用による 静岡県の持続的なわさび産業振興	西日本電信電話株式会社（NTT 西日本）
6	未来の街のオンライン見学	日本電気株式会社
7	身近な課題をデジタルで解決する	認定NPO 法人はままつ子育てネットワークぴっぴ
8	浜松市のスマート農業	浜松スマート農業推進協議会
9	地理情報（GIS）	株式会社フジヤマ
10	産業分野におけるイノベーション創出とDX	リンクウィズ 株式会社
11	ICT を考える	特定非営利活動法人 六星・ウィズ

令和4年度講師派遣実績（12/8時点）



第1回

日時：7月8日（金） 14:10-14:55

対象：浜松市立篠原小学校6年生120名

講師：ソフトバンク(株)

講座：「ミライの社会を覗いてみよう！」



第2回

日時：9月22日（木） 10:50-12:40

対象：静岡県立浜松湖北高等学校3年生20名

講師：西日本電信電話(株)

講座：「デジタルデータの活用による
静岡県の持続的なわさび産業振興」



第3回

日時：9月29日（木） 13:20-15:00

対象：浜松市立富塚小学校4年生78名

講師：(特非)六星 ウイズ半田

講座：「ICTを考える」



第4回

日時：10月18日（火） 13:30-14:15

対象：浜松市立平山小学校 6年生10名

講師：(株)トラジェクトリー

講座：「ドローンの未来について」

(6) Hamamatsu ORI-Project

- ・ 現在は、7か月間（8月～2023年2月）の事業検証支援期間です。
- ・ 3月の中下旬に、事業検証後の成果発表会を開催する予定です。

	2022										2023		
小項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
全体スケジュール		募集	事業構想支援			事業検証支援					成果報告		
個別日程			▼オリエンテーション 6月3日（金）	▼ワークショップ 7月4日(月)午後 ▼第1回データ連携基盤 活用勉強会 7月14日(木) ▼事業プレゼンテーション 7月26日（火） SLACKによる技術 相談、サービス構想支援等対応						▼事業検証 中間報告会 12月12日（月） ※データ連携基盤 補助金採択団体と 合同開催		▼成果 発表会 3月中下旬	
			・個別メンタリング （概ね月2回、開催頻度や日程 調整はSLACKで個別に実施）										

令和4年度の事業検証支援先

- ・ 下記の5者に対し、令和4年8月～令和5年2月に掛けて事業検証支援を実施しています。

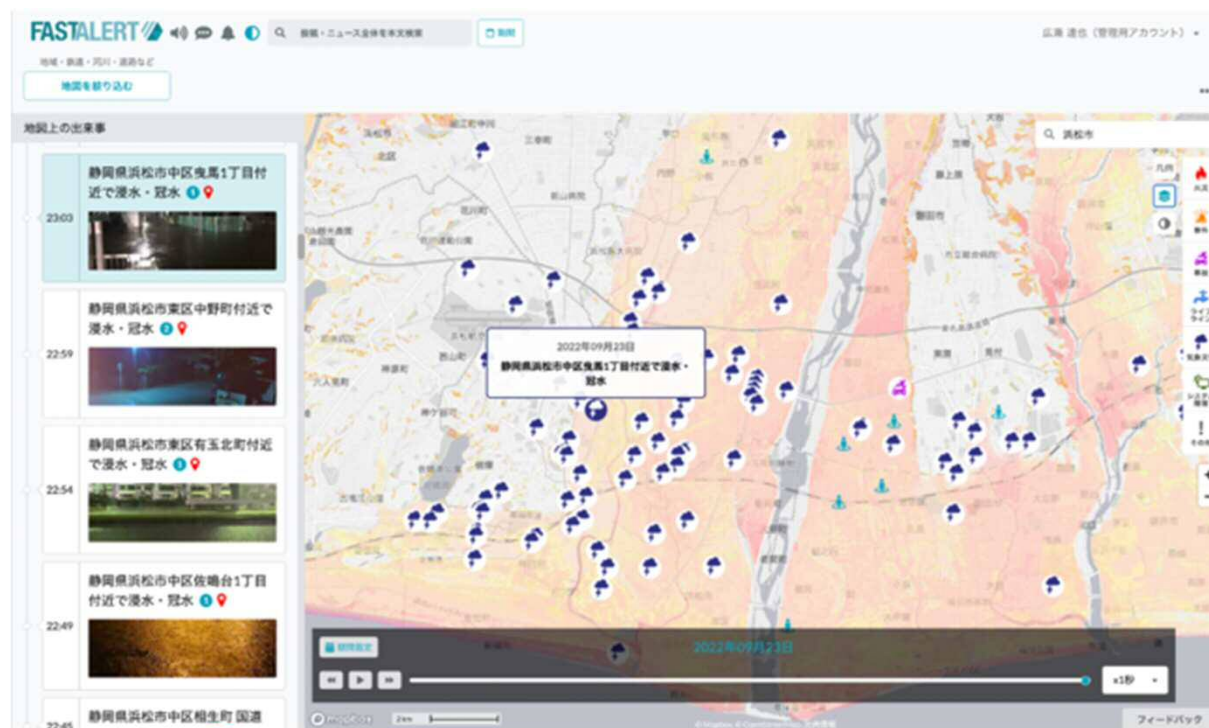
- 国際航業株式会社（本社所在地：東京都新宿区）
サービス名「道路パトロール業務の効率化 ～道路パトロールシステム～」
- 株式会社JX通信社（本社所在地：東京都千代田区）
サービス名「リスク関連情報収集サービス「FASTALERT」と「NewsDigest」を利用した地域防災力向上・地域活性化に向けた取り組み」
- 株式会社アール・スリー（本社所在地：神奈川県横浜市青葉区）
サービス名「EDiTuS My City HAMAMATSU」
- ユニソック合同会社（本社所在地：静岡県駿東郡長泉町）
サービス名「『AVS』Active Volunteer System ～ボランティア体験を通して、個人の主体性を高める法人向けサービス～」
- 下記4社による連携体
 - ・ 株式会社GreatValue（連携体の代表、本社所在地：東京都港区）
 - ・ イーデザイン損害保険株式会社（本社所在地：東京都新宿区）
 - ・ 株式会社Helte（本社所在地：千葉県柏市）
 - ・ 株式会社トラスト・アーキテクチャ（本社所在地：東京都港区）
サービス名「浜松市の生活を情報で支援する浜松ヒーローズ」

- 12月12日（月）、令和4年度のHamamatsu ORI-Project及びデータ連携基盤活用サービス実装支援補助金の合同中間報告会をオンラインで開催しました。
- それぞれのサービスの概要や、データ活用の方法について互いに共有することで、サービス同士の連携の促進や、データ連携基盤の活用のヒントをつかんでもらうことを目的として実施しています。

ORI-Project・データ連携基盤活用サービス実装補助金 合同中間報告会の様子



- SNSの情報をAIで集約し、現に発生している事故や災害等の情報を位置情報と併せて整理できる「FASTALERT」とユーザーからの情報投稿機能（報酬付）を有するニュースアプリ「NewsDigest」の投稿情報を組み合わせ、データ連携基盤を介して、危険情報・リスク情報を可視化します。
- 9月下旬から庁内関係課にて「FASTALERT」をトライアルとして使用しています。また、NewsDigestについて、地域の企業や大学等と連携し、市内の危険情報の投稿の促進を図っています。



FASTALERTによる分析（令和4年台風15号接近時の浜松市内の様子）

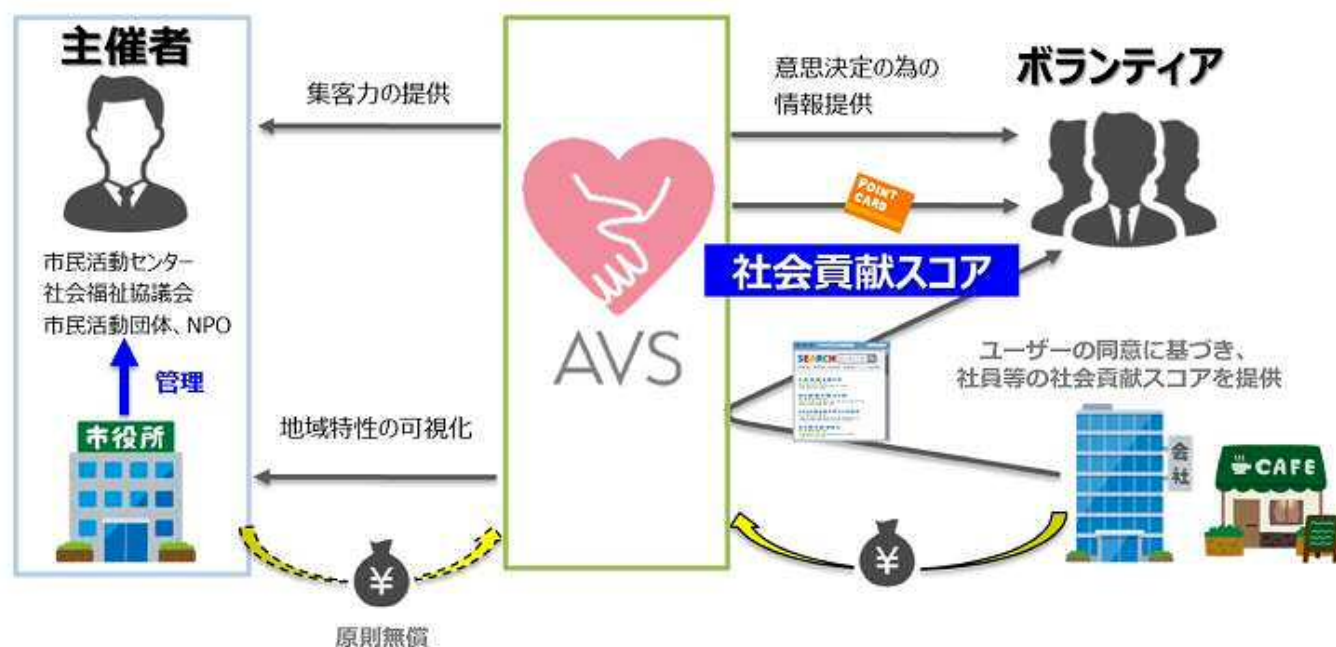


NewsDigestの情報投稿機能

個別案件の進捗 – ユニソック

27

- 様々な主体が個別に発信している、市内のボランティア情報について、専用のLINEアプリを通じて集約して発信し、ユーザーの参加実績を集計します。データ連携基盤を活用し、ボランティア実績からエリア別の「SDGsスコア」を分析・可視化します。
- 11月から、浜松市市民協働センターや常葉大学浜松キャンパスボランティアセンター等と連携し、ボランティア情報の発信と市内のユーザーの登録促進を行っています。



全体のスキーム



LINEによる情報発信

(7) データ連携基盤活用サービス 実装支援補助金

データ連携基盤活用サービス実装支援補助金について



- 過年度のHamamatsu ORI-Projectの支援案件など、データ連携基盤を活用したサービスの地域実装に向けた取組に掛かる経費を補助します。
- 令和4年度の新規事業であり、デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ TYPE 2）を充当しています。

1 目 的

本市においてデータ連携基盤を活用したサービスの実装（調査や実証実験にとどまらず、継続的なサービス提供を開始すること）に向けて取り組む民間企業を支援し、データ連携基盤を有効活用した先端サービスの実装により本市の課題解決や市民QoL（生活の質）の向上を図るとともに、本市発の新たなイノベーションの創出を目指す。

2 事業概要

- ◎データ連携基盤を活用したサービスを本市において早期に実装することを目指して取組を行う事業者に対し、その取組に必要な資機材のリース費用、取組の協力者への謝金、国内の交通費等を補助する「浜松市データ連携基盤活用サービス実装支援補助金」を創設し、運用する。
- ◎補助金額は、補助上限額200万円/件、補助率2/3以内。

令和4年度の補助事業採択先

- 下記の4者に対し、補助金の交付決定を行い、実装に向けた取組を支援しています。

■ 株式会社オサシ・テクノス（本社所在地：高知県高知市）

補助事業名

「冠水エリア予測システム」

■ 株式会社フジヤマ（本社所在地：静岡県浜松市中区）

補助事業名

「浜松市データ連携基盤を活用した斜面表層崩壊モニタリングサービス構築業務」

■ 八千代エンジニアリング株式会社（本社所在地：東京都台東区）

補助事業名

「河川を流下する人工系ごみ（プラ含む）輸送量データに基づくごみ削減対策」

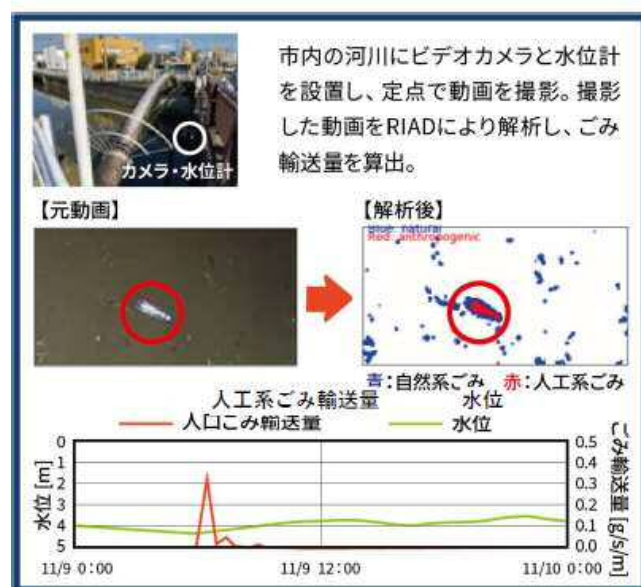
■ 一般社団法人One Smile Foundation（本社所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区）

補助事業名

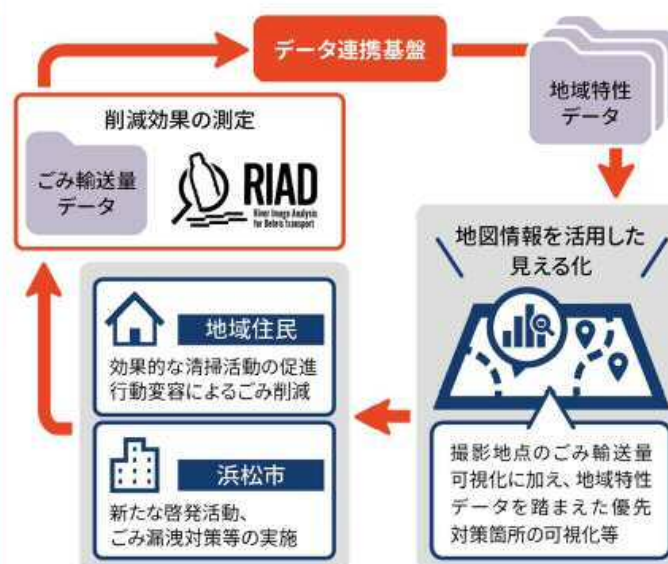
「高齢者施設におけるSmiral－スマイラル－の実装事業」

- 令和3年度のORI-Projectの支援案件。河川の水面をビデオカメラで定点撮影し、得られた動画について、RIAD（水表面の動画データから川を流れるごみの量を把握する技術）による分析を行い、そのデータを元に、ごみ輸送量を可視化することで、清掃活動やゴミ削減活動等の活発化を促すものです。
- 今年度は9月から、佐鳴湖に流れ込む段子川の4か所に機材を設置し、地点ごとのごみ流量を分析しています。今後は、流量の分析データと地域の状況（ごみ集積所の位置、通行量等）を組み合わせ、分析し、河川ごみの流量と地域特性の相関を考察したのち、地域住民との意見交換を行います。

2021年度（ORI-Pro #2）



2022年度



昨年度（ORI-Pro）と今年度（補助金事業）の取組事項の比較

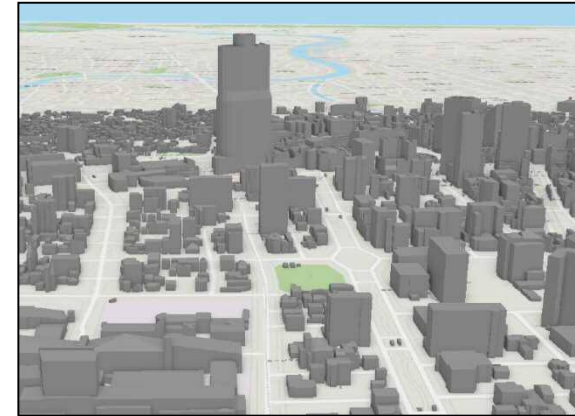
今年度の機器設置場所

(8) 3D都市モデル整備事業について

10. 3D都市モデル整備事業について

項目	内 容
目的	「建物情報」、「災害リスク」等を付加した「3D都市モデル」を整備し、デジタル技術を活用することで、持続的に発展する都市づくりを推進する。
概要	■ 3D都市モデルの作成 ・ LOD1（箱モデル） 都市計画区域514.6km² ・ LOD2（屋根モデル） 都市機能誘導区域8.1km² ■ 属性情報の付加 ・ 都市計画情報、災害リスク等 ■ オープンデータ化 ・ 国交省「PLATEAU VIEW」で公開

■ 3D都市モデル イメージ図



■ 建物モデル イメージ図



※ 3D都市モデルとは

・ 二次元の地図に建物・地形等の高さや建物形状を掛け合わせて作成した三次元の地図に、建物名称、用途等の情報を加え、デジタル上で再現したもの。

(9) 地域幸福度（Well-Being）指標活用による 市民のWell-Being向上について

国（デジタル田園都市国家構想）

地域の人々のWell-Beingの向上の実現といった共通のゴールに向け価値観の共有を進め、共助の取組を引き出す。

（Well-beingに係る指標の整備、活用の推進）

Well-Beingの視点で
暮らしやすさと幸福感を実感できるように
地域幸福度（Well-Being）指標を
活用していく



デジタル庁
デジタル社会の実現に向けた重点計画（概要）より

市（デジタル・スマートシティ構想）

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し「**市民QoLの向上**」と「**都市の最適化**」を目指しデジタルで“繋がる未来”を官民で共創

選定の観点

- ◎ 市民の幸福度向上への寄与度
- ◎ デジタル・スマートシティの取組方針との親和性

ウェルネス分野

市民がいつまでも健康で幸せに暮らせる「予防・健幸都市」の実現を目指し、官民で取組を推進。



カーボンニュートラル／エネルギー分野

再生可能エネルギー導入容量日本一の特徴を活かし、産学官金によるプラットフォームを形成し、様々なスマートプロジェクトを推進。



交通／モビリティ分野

広大な市域や自動車産業が盛んな都市の特徴を活かした取組を推進。



スタートアップ分野

スタートアップと地域のものづくり企業との融合による新産業の創出を目指す。



地域幸福度（Well-Being）指標の活用に向けた庁内の取組

37

Digital Smart City
HAMAMATSU

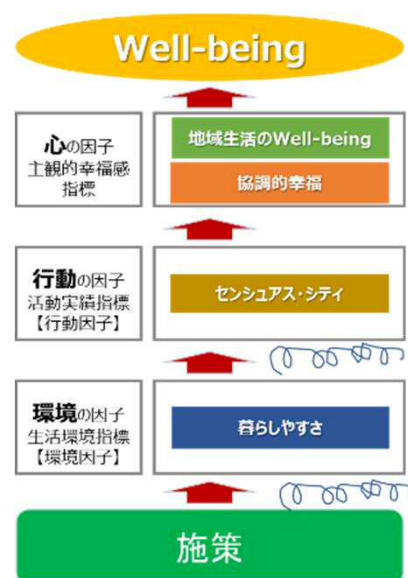
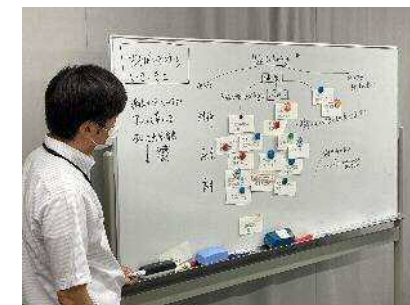
2022年5月27日

南雲フェローにお越しいただき、キックオフ・ミーティングを開催。各分野の担当職員が集まり、Well-Being指標についての理解を深めた。



2022年6月17日

「健康はままつ21」の目標やKPIを分解・再構築するといったやり方でWell-Beingのシナリオを考案。



【気付き】

- ・ 身体/心の健康に紐づくグループに分けられる
- ・ 年代によりWell-Beingが異なる（年齢が高いほど健康が重要）
- ・ 健康寿命と市民の幸福感は必ずしも直結しない
- ・ やりたいことができると生きがいの違いを考える
- ・ 健康は手段であって目的でない
- ・ 現計画は不健康への対処の色合いが強い
- ・ 生きる楽しみは健康以外の要素で補完できる
- ・ ウエルネス分野は個人に帰属する要素が強い
- ・ 健康だけでWell-Beingのシナリオ完成が難しい（他分野に派生）

Well-Being(幸福感)あふれるまちづくりに関するワークショップ

Digital Smart City
HAMAMATSU

開催日 2022年10月27日(木)

実施体制 主催：浜松市

共催：浜松市デジタル・スマートシティ官民連携PF

運営支援：(一社)コード・フォー・ジャパン

参加者 官民連携PF運営委員会構成団体、官民連携PF会員、
子育てNPO、在住外国人支援団体、大学生、市職員 計26名

ワークショップの紹介記事(C4J)：

<https://www.code4japan.org/news/event-20221027-decidim>

- 自分が日常で感じる幸せな瞬間 or エピソードを互いに紹介。
各エピソードを性質ごとに分類・整理しながら自分のWell-beingとまちづくりについて議論。
- **特定の人物像を設定し、特に重要と感じたエピソードを使って未来の浜松に向けた「幸せな暮らしのストーリー※」を創作・発表。**
※主人公の市民がより幸せを感じられる暮らしを創るため、まちに何が必要なのか考える

ワークショップの様子はアーカイブとして浜松市noteで公開予定。市民の理解促進に活用。

Well-being(幸福感)あふれる まちづくりに関するワークショップ

日時: 令和4年10月27日(木) 13:15~16:15

会場: ここ・い〜ら(浜松こども館分室) ギャラリー1

主催: 浜松市、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

協力: 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート、
一般社団法人コード・フォー・ジャパン

今後の取組の予定

➤ 浜松市独自アンケートの分析

- ・ 民間のインターネットモニターを活用し市民アンケートを実施（サンプル数：約1,800）
- ・ 全国アンケートの補完、先行的に活用する4分野での独自項目
- ・ 11月：市民アンケート実施、12月：集計、1月：分析

➤ 先行4分野でのシナリオづくり

- ・ モビリティ、ウェルネス、カーボンニュートラル、スタートアップにおいて、まずは庁内でシナリオを作成（ペルソナを設定し作成）

➤ 官民の取組でのWell-Being指標やシナリオの活用

- ・ 12/22に開催する官民連携PFの運営委員会でWSの開催報告
- ・ 各分野（モビリティ、ウェルネス等）の推進母体での活用
例：先行活用分野のモビリティ分野において、官民連携組織の浜松市モビリティサービス推進コンソーシアムでモビリティ分野のシナリオを共有し、意見交換やシナリオを活用したWS等を開催

デジタル田園都市国家構想実現に向けた地域幸福度（Well-Being）指標の活用促進 に関する検討会で浜松市の取組を発表

41



開催日時

2022年12月19日（月） 13:00-14:30

次 第

座長挨拶

自治体の取組紹介① 加古川市

自治体の取組紹介② 浜松市

自治体の取組紹介③ 朝日町

地域幸福度（Well-Being）指標活用推進状況

意見交換

検討会構成員

氏 名	所 属
前野 隆司	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授
石川 善樹	Well-being for Planet Earth 代表理事
内田 由紀子	京都大学人と社会の未来研究院教授
太田 直樹	株式会社New Stories 代表取締役、一般社団法人コード・フォー・ジャパン理事
隈 研吾	建築家、東京大学特別教授・名誉教授
小泉 秀樹	東京大学先端科学技術研究センター教授
笹尾 知世	東京大学大学院新領域創成科学研究科ハビタット・イノベーション研究社会連携講座特任助教
白坂 成功	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授
鈴木 寛	東京大学公共政策大学院教授
関 治之	一般社団法人コード・フォー・ジャパン代表理事
南雲 岳彦	一般社団法人スマートシティ・インスティテュート専務理事
広井 良典	京都大学人と社会の未来研究院教授

3 意見交換

(1) DX推進に関する静岡県内企業の 意識調査について



株式会社帝国データバンク
浜松支店長 森 晴朗 氏

(2) 中小企業のDX支援について

①市の取組について

(2) [浜松市] 中小企業のDX支援について

46

Digital Smart City
HAMAMATSU



DX成功の **5** つポイント に基づく**DX**支援を実施

デジタルガバメント・コード
実践の手引き 【経済産業省】

1 気付き・きっかけと経営者のリーダーシップ

- ・中堅・中小企業等のDXにおいては、経営者のリーダーシップが大きな役割を果たす。
- ・特にDXの推進に取り組む「きっかけ」や、「気づき」を得る機会をいかにして得られるかが重要

2 まずは身近なところから

- ・まずは身近な業務のデジタル化や、既存データや身近なデータの収集・活用に着手
- ・その推進過程で成功体験を得るとともに、ノウハウ蓄積や人材確保・育成し、組織全体に拡大

3 外部の視点、デジタル 人材の確保

- ・日々発展するデジタル技術を経営の力にするためには、専門的な知見が必須
- ・取組を迅速に推進するため、外部の人材の力を活用しながら不足するスキルやノウハウを補う

4 DXのプロセスを通じたビジネスモデル・組織文化の変革

5 中長期的な取組の推進

1 気付き・きっかけと経営者のリーダーシップ

デジタル経営セミナー

実施機関：（公財）浜松地域イノベーション推進機構

■ 背景・目的

ものづくり企業は「原材料費、燃料費高騰」、「調達難」、「資金不足」等により、これまで経験したことのない危機に直面している。

そのような状況下で利益を確保するため、企業におけるデジタル化導入を促し、技術を活用した業務の変革、生産性向上を図ることを目的とする。

■ 事業概要

デジタル化の推進のため、自社の進捗状況にあわせ、きっかけづくりからアクションプラン作成までの具体的な手順を学ぶセミナーを実施

- ・対 象：デジタル化を推進したい経営者層
デジタル化担当者
- ・内 容：1回目（10/13）危機感の醸成
2回目（11/16）活用事例の把握
3回目（12/ 8）自社のデジタル化推進の手順
アクションプランの作成
- ・その他：セミナー参加者に対するフォローアップ支援の実施

■ 事業イメージ

第3回
ものづくり企業向け
デジタル経営セミナー in 浜松

<テーマ>
デジタル化推進の具体的な手順を知り、自社が
今後取り組むアクションプランを作成する

日時 2022年12月8日(木) 13:30~16:30
(開場 13:00)

会場 グラントホテル浜松 2階「レアンジェの間」
(浜松市中区東伊藤1-3-1)

定員 先着30名様

参加費 無料
(※浜松市外の企業の方は1,000円(税込))

対象 中小製造業の経営者様又はデジタル化の担当者様

2 まずは身近なところから

新型コロナウイルス感染症対策デジタル化応援事業 [実施年度：令和3～4年度]

■ 背景・目的

コロナ禍で売上が減少している中小企業者のデジタル化による「新しい生活様式」への対応や「業務改善」への取組に対し補助金を交付し、デジタル化を推進する。

■ 予算

(単位：千円)

年度	予算額	決算額	財源
R 3	800,000	276,102	(国) コロナ交付金 800,000
R 4	220,000		(国) コロナ交付金 220,000

■ 事業概要

■ 対象者

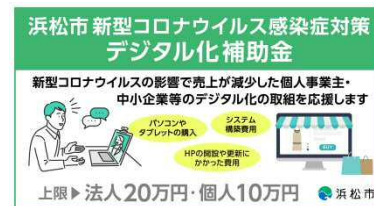
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2021年の売上が2019年又は2020年と比較して10%以上減少している市内の中小企業者
- 2020年4月以降新たに、新しい生活様式への対応や生産性の向上等を目的にデジタル化に取り組んでいる中小企業者

■ 補助額（上限）

中小企業者 20万円
個人事業主 10万円

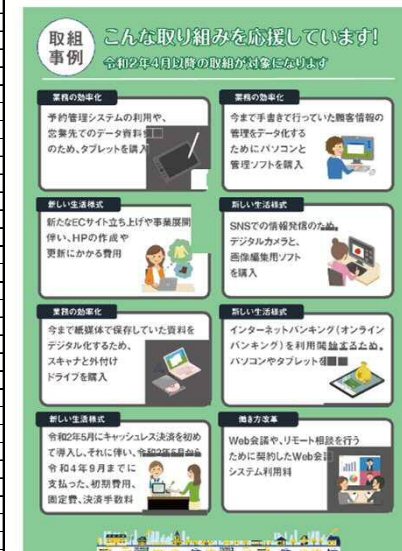
■ 補助率

10分の10



■ 事業イメージ

項目	取り組み(システムなど) 事例
新しい生活様式	インターネットバンキング
	キャッシュレス対応
	見積・請求・入金管理
	電子商取引(EC)の導入
	ホームページ作成
働き方改革	デリバリーサービスシステム
	オンラインイベント
	人事評価・人材育成システム
	労務・勤怠・入退管理システム
	採用・社員管理システム
業務の効率化	グループウェア・コミュニティ管理システム
	ビジネスチャット
	テレワーク
	オンライン会議
	マーケティングシステム
	メール配信システム
	顧客管理
	予約管理
	名刺管理
	販売管理
	会計管理システム
	給与・経費精算システム
	イベント管理システム
	AI(人工知能)
	チャットボット(自動会話プログラム)
	WEB接客
	ペーパーレス推進
	電子契約
	セルフレジの導入
	通信環境整備・サーバーの導入
	情報セキュリティ



■ 事業実績 ※令和3年度

- 交付確定額：246,273千円
- 交付企業数：1,664社（法人1,027社、個人67社）

【事例】

- オンライン会議 [PC、カメラ、ネット環境]
- テレワークの実施 [ネットワーク機器、PC、プリンタ]
- 会計管理の電子化 [会計管理システム]

- ・工程管理システムの導入
- ・稼働監視 W EB システム導入による設備稼働状況の見える化
- ・生産管理システムデータ活用による設備総合効率の収集
- ・ハンディターミナル（H T ）導入によるデータ活用・業務効率化

3 外部の視点、デジタル人材の確保

スマートものづくり支援デスク

実施機関：（公財）浜松地域イノベーション推進機構

■ 背景・目的

生産性向上を図るためIoTやロボットは有力な手段の1つとして期待されるが、多くの中小企業では自社単独での導入が難しく、IT人材等に乏しいという市内中小企業の課題を解決するため、製造現場の生産性向上等を目的とした、産業用ロボットやIoT導入、社内デジタル化を支援する。

■ 事業概要

- (1) スマートものづくり支援デスクを設置し、専任のコーディネーターがアドバイスをを行うとともに、各支援機関と連携して地域中小企業をワンストップで支援
- (2) DX連携ワークショップ
 - 期日：9月20・21日
 - 内容：スマートファクトリー化を目指す中小ものづくり製造業の製造現場における課題や困りごとについて、課題解決手段や投資効果などをディスカッションすることで、新たな気付きやアイデアを得ていただくワークショップ
 - 対象：中小企業、IoTベンダー、ロボットSier 等
- (3) 工程別課題解決ワークショップ〔外観検査編〕
 - 期日：10月14日
 - 内容：外観検査における共通課題をデジタル技術を活用して解決するためのワークショップ
 - 対象：中小企業、ロボットSier 等

■ 事業イメージ



■ 事業実績 ※令和3年度

相談件数：61件

〔相談事例〕

- ・塗装ラインのIoT化
- ・設備稼働状況の見える化

②金融機関における取組について

- 静岡銀行
- 浜松いわた信用金庫
- 遠州信用金庫

会社名 静岡ＩＴソリューション株式会社

所在地 静岡市清水区草薙北１－１０（静岡銀行草薙センター内）

設立 １９７４年４月１日

社員数 ２４８人（２０２２年３月３１日現在）

URL <https://www.shizuoka-cs.co.jp>



2022
健康経営優良法人
Health and productivity



- 事業内容
- ＩＴコンサルティングサービス・プロジェクト伴走支援サービス
 - ＩＴ化支援サービス（ＩＴソリューション導入支援）
 - 業務アプリ、業務効率化ツール構築サービス
 - ＩＴ導入補助金申請支援サービス
 - 社内ネットワーク構築サービス
 - サイバーセキュリティ対策支援サービス
 - データ分析サービス（データ分析による経営状況の可視化、デジタルマーケティング支援 など）



総合金融サービスを提供するしずおかフィナンシャルグループの一員として、お客様の経営課題の解決に向けた豊富なITソリューションサービスをご提供します。



ITコンサルティング・ プロジェクト伴走支援

お客さまの課題解決に有用なITソリューションを提案します。

お客さまのプロジェクトに参画し、課題の明確化や解消への手助けなど、プロジェクトの円滑な運営を支援します。



IT化支援

お客さまのニーズにマッチしたSaaSサービス、パッケージソフト等の導入を支援します。

ITソリューション導入後の問い合わせに対応します。



業務アプリ・ 業務効率化ツール構築

業務アプリケーションやWebページの開発、業務効率化を目的としたkintone、RPA、AI-OCRの導入を支援します。



IT導入補助金支援

IT導入支援事業者として、お客さまのIT導入補助金の活用提案や補助金申請を支援します。



社内ネットワーク構築

パソコン・サーバ等の機器導入、社内ネットワークの構築及び導入後の保守サービスを行います。



サイバーセキュリティ 対策支援

セキュリティ対策導入、システムの脆弱性診断・外部サービスのセキュリティ評価、セキュリティ強化策の提案などセキュリティ対策全般について支援します。



データ分析

データ分析による経営情報の可視化、社内外データを使用したデジタルマーケティングなど、データ利活用による課題発見・解消、業務改善を支援します。

※一部サービスはパートナー企業と提携しご提供します



D X 支援の取り組み

浜松いわた信用金庫

2022/12/22

1. 当金庫のサポート体制



(目的)

- 域内事業者のデジタル化サポート

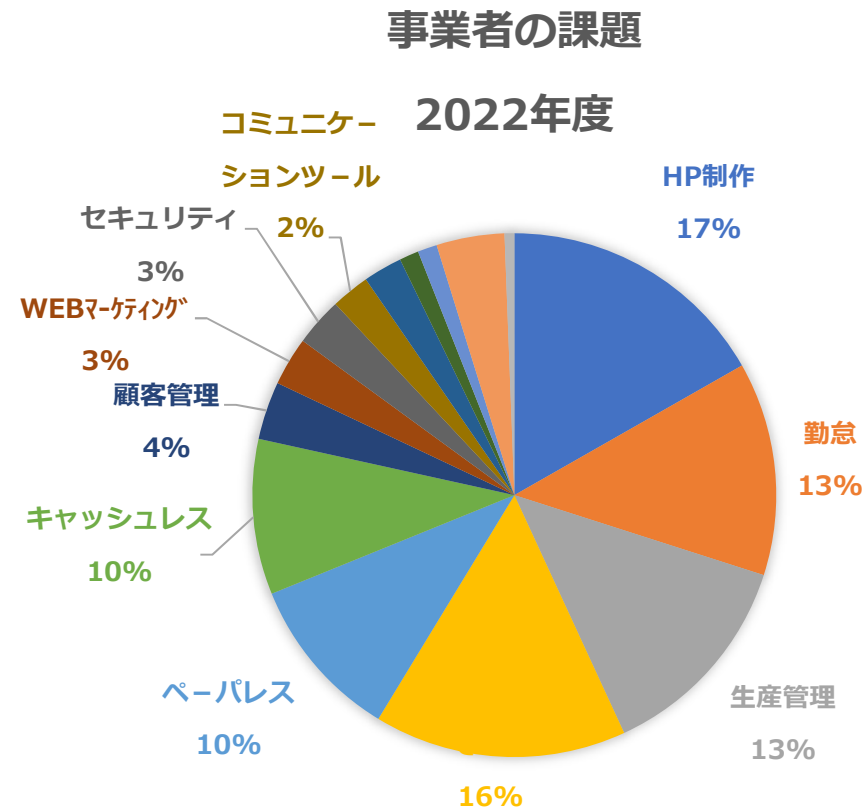
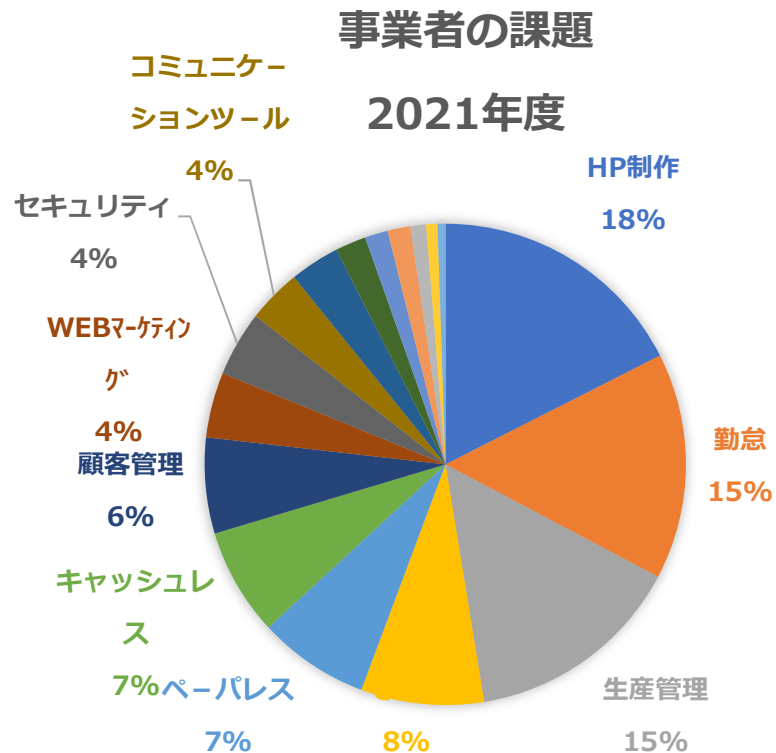
(体制)

- 2021年4月、本部に I Tサポートセンターを設置
- 5名体制
- 地元ベンダー等、50社以上の協業ベンダー
- 事業者の課題、ニーズの把握は、営業店からのトスアップが主体
- センター職員が現地へ訪問し、ヒアリングを通じて課題を把握
- ベンダー、ソリューションを紹介

2. 取り組み実績

2021年度相談先は300先。400件
近い課題を把握

2022年度の相談先は158先（11月
末現在）



(デジタル化取り組みの背景)



- 採用活動におけるホームページの活用
- 建設、運送業界における働き方改革の浸透（勤怠管理）
- 系列企業からのセキュリティ対策要請
- インボイス制度対応
- コロナ禍におけるキャッシュレス、モバイルオーダー

4. 運営上の課題



- 周知活動の不足
- 営業店職員による課題、ニーズの聞き取り能力向上
- 本部職員によるサポートの質的向上
- 金庫職員の成功体験不足

取引先へのDX化の取り組み

具体的な取り組み内容

業 務 連 携

- 取引先の更なるDX化を支援するために業務連携増加させ強化
➡業務連携先：リコージャパン(株)・日本デジコム・・・総合デジタルサービス対応

支援体制の構築

- 法人営業担当の取引先へのDX化のミーティング開催
- DX化専門家を交え取引先の経営課題をDX化にて解決

IT知識の向上

- 財務会計給与システム支援（インボイス・電子帳簿保存法対応）勉強会
- 工場内見える化（IoT対応）勉強会
- 法人営業担当のITリテラシー向上のため資格を取得し、提案活動に活用

提案事例

美容
業



- 中小デジタル化支援ポータル「みらデジ」活用
- 集客施策
 - Googleビジネスプロフィールの活用
 - Instagramの活用
 - 自社サイト構築
 - Web予約（運用等）顧客管理

レンタカー
会社



- ペーパーレスツール採用
 - パソコンFAXソフトの導入支援
 - クラウドシステム、電子請求書発行システムの導入支援
- TKCシステムとの連携

海外輸出業



- ペーパーレスツール採用
 - 効率の良い積み込み作業に際し、事前CAD操作を時間を短縮
 - RFID導入により容易に在庫管理を行う

③ ハマロボ展の開催について

浜松商工会議所 浜松ロボット産業創成研究会

産業用・協働ロボット展示イベント

ハマロボ展

HAMAROB 2022

観覧のご案内

開催報告

 浜松商工会議所

The Hamamatsu Chamber of Commerce and Industry

1. 課題と開催のねらい

＜課題＞ 製造現場の自動化・ロボット化が進んでいない

中小製造業にとって人手不足や労働人口の高齢化は喫緊の課題であるものの、自動車のEV化や材料の調達難・高騰など先行き見通しが悪く、思い切った設備投資に踏み込めない。

＜開催のねらい＞ イベントを通じたロボット導入の啓発と後押し

近年関心の高まっている協働ロボットを呼び水にして、ロボットや自動化に関心のある企業を集客し、出展企業とのビジネスマッチングや、当会議所の「ロボット導入支援」スキームで支援する。

2. 開催概要

3

日 時	11月24日（木）・25日（金） 10:00～17:00（25日は16:00で入場締切）
会 場	浜松商工会議所 10階会議室および1Fエントランス
内 容	①産業用・協働ロボットのデモ展示会 ②ロボットに関するセミナー ③専門家による個別相談会
目 標	300人（2日間合計）
主 催	浜松商工会議所 浜松ロボット産業創成研究会
共 催	スマートものづくり支援デスク （（公財）浜松地域イノベーション推進機構）・磐田市

 浜松商工会議所

The Hamamatsu Chamber of Commerce and Industry

3. 出展企業 7社

4

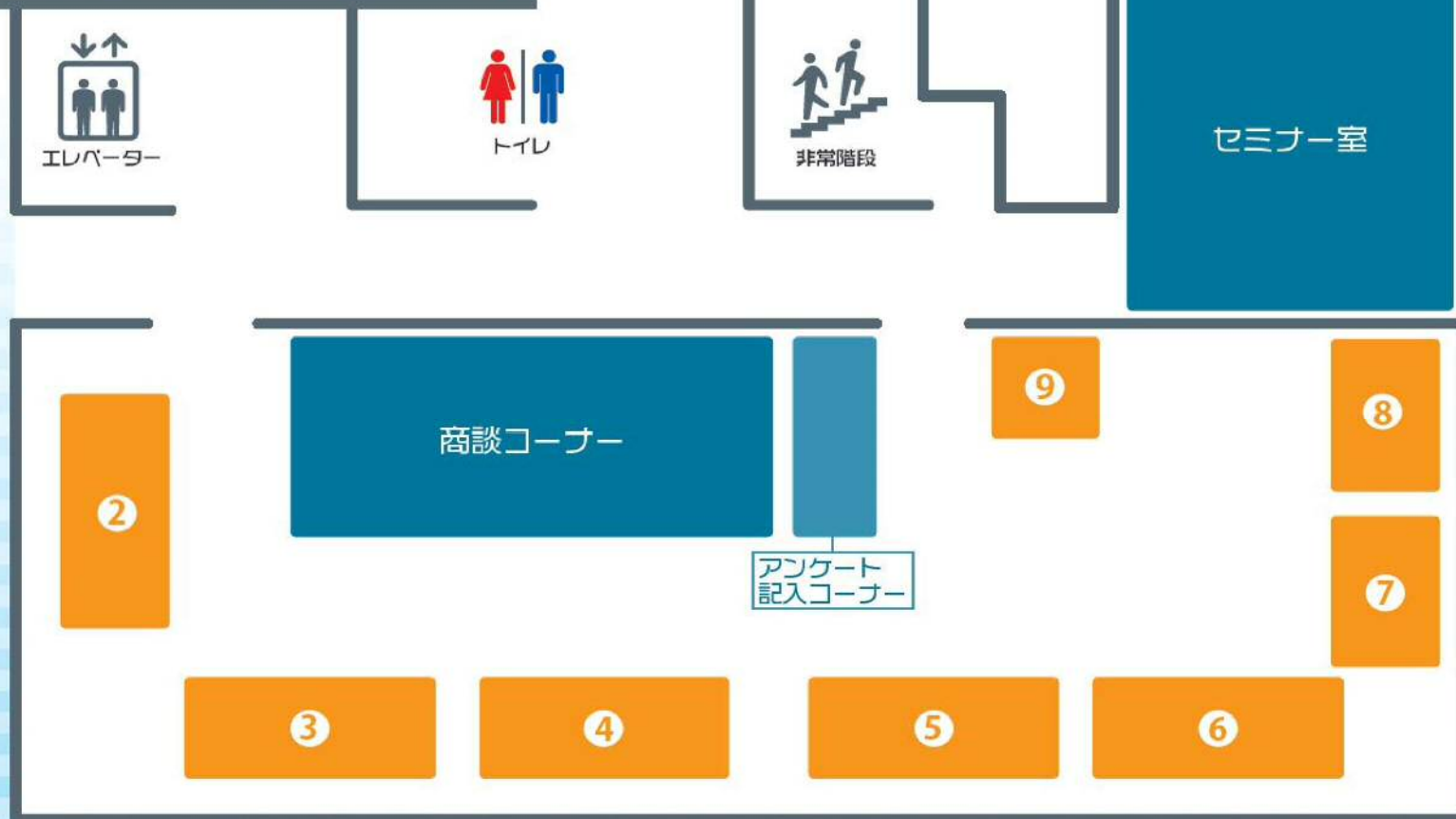
	展示ロボット	出展者(共同出展)	出展者種別
日本	ヤマハ発動機	ヤマハ発動機（株）ロボティクス事業部	メーカー
	ファナック	ダイドー（株）（（株）松下工業）	代理店 (ロボットSIer)
	安川電機	協立電機（株）（（株）安川電機）	ロボットSIer (メーカー)
	カワダロボティクス	（株）日本設計工業	ロボットSIer
海外 大手	ユニバーサルロボット	（株）アライブテック (ユニバーサルロボット)	ロボットSIer (メーカー)
	テックマンロボット	SSI（株）	代理店
浜松	SUPPOT（サポット）	（株）ソミックマネージメントホールディングス	メーカー

※ロボットSIer（システムインテグレータ）…システム構築・販売を行う専門業者

3. 出展企業-会場レイアウト（10F展示会場）

5

ハマロボ展 2022 10F 展示会場レイアウト



出展ブース

② テックマンロボット (SSI ㈱)

③ ファナック (ダイドー ㈱)

④ 安川電機 (協立電機 ㈱)

⑤ カワダロボティクス (㈱日本設計工業)

⑥ ユニバーサルロボット (㈱アライブテック)

⑦ ヤマハ発動機 (ヤマハ発動機 ㈱)

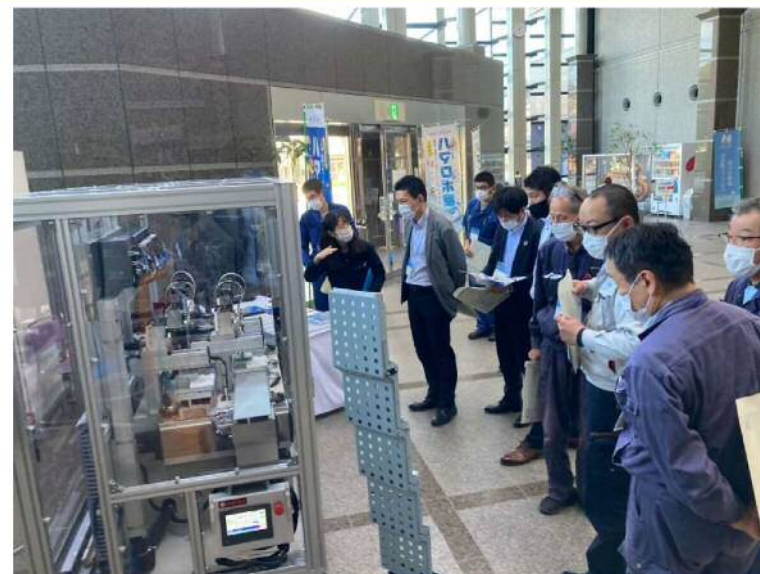
⑧ SUPPOT (㈱ソミックマネージメントホールディングス)

⑨ 支援機関ブース

所

4. ハマロボ展の様子

6



1Fエントランス
受付・ヤマハ発動機ブース

 浜松商工会議所

The Hamamatsu Chamber of Commerce and Industry

4. ハマロボ展の様子（10階展示会場）

7



議所

4. ハマロボ展の様子（10階展示会場）

8



所

【出展者】 7社：33名

【参加者】

①ハマロボ展来場者： 462名（2日間合計）

②特別セミナー参加者：102名（6コマ延べ人数）

③個別面談対応：4社 ※専門人材との事前予約制

※来場者アンケート、出展者アンケートについては現在調査・集計中。

6. メディア掲載

10

11/25 中日新聞

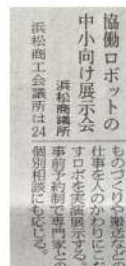


11/26 朝日新聞

12/10 日経新聞



11/25 日経新聞



11/25 静岡新聞



④ 「DX経営塾」の開催について



Team - Hamamatsu

DX 経営塾

講師紹介



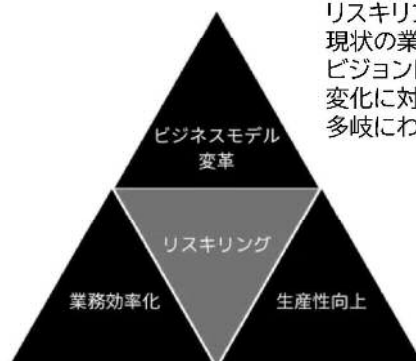
会社名 モノデジタル株式会社
 設立年月 2022年7月
 所在地 〒640-8392
 和歌山県和歌山市中之島775-3
 代表取締役 和田 正典
 資本金 1,000,000円
 事業内容 DX推進コンサルティング支援事業



一般社団法人
 日本デジタルトランスフォーメーション推進協会
 和歌山県支部

活動内容

1. DX推進人材の育成や組織づくりの支援
2. DXに関するイベントや勉強会の開催、講師派遣
3. 地域におけるDX推進に関するプロジェクト
4. DXの啓蒙・普及・政策提言
5. 情報提供



リスクリングを中心に
 現状の業務遂行方式をヒアリングから
 ビジョンに沿った最適解へ向かって引率し
 変化に対応したDX業務フロー構築、DX変革者育成等
 多岐にわたり継続性あるDXを探求します。

全国中小企業クラウド実践大賞

クラウド活用が中小企業の未来を切り拓く

全国中小企業クラウド実践大賞とは、クラウドを活用して新規事業創造、収益向上、業務効率化を実現した中小企業等の実践事例を発掘し、広めていくためのプロジェクトです。
このプロジェクトに参加すると、経営方針の振り返りや対外的な発信の機会となり、身近な他社事例から学び実践することで、クラウド活用のきっかけとして、さらにはビジネス拡大の機会として活用いただけます。

主催：クラウド実践大賞実行委員会

クラウド実践大賞実行委員会は、地域の中小企業・小規模事業者等による収益力向上・経営効率化を実現するクラウドサービス実践事例を普及展開すること目的とし、令和元年7月に設立した任意団体です。

日本商工会議所
全国商工会連合会
全国中小企業団体中央会
（一社）クラウド活用・地域ICT投資促進協議会
（一社）クラウドサービス推進機構
（一社）日本デジタルトランスフォーメーション推進協会

【共催】
総務省

【後援】

中小企業庁、（独法）中小企業基盤整備機構、（独法）情報処理推進機構、（一財）全国地域情報化推進協会、（一社）中小企業診断協会、（一社）テレコムサービス協会、（一社）日本コンピュータシステム販売店協会、（特非）ITコーディネータ協会、働き方改革推進コンソーシアム、（一社）IT顧問協会、Re-Innovate Japan



<https://cloudinitiative.jp/2021zenkoku>

講義の目的

DXは一過性のムーブメントではなく、企業が生き残りをかけて確実に訪れる変化への対応に必要なものです。経済産業省が指摘する「**2025年の崖**」が刻々と迫りつつあり、今すぐに取り組まないと間に合わないという強い警鐘ともいえます。一方で「**DXの進め方が分からない**」「**人材がない**」「**時間がない**」などの理由でDXという言葉は知っていても着手できていない企業が数多く存在するのも事実です。そこで本講座では、IT・デジタル人材のいない中小企業に特化し、DXの必要性や基本的な進め方、起こりがちなトラブル対処方法などについて学び、DXの最初の一步を踏み出す！

各回 14:00~17:00 会場：浜松商工会議所

カリキュラム	第1講 (11/8)	DXをなぜしないといけないのか？
	第2講 (11/22)	2025年の崖を飛び越えるDX体質の作り方
	第3講 (12/7)	クラウドサービスの選定方法
	第4講 (12/21)	API連携の事例
	第5講 (1/11)	データドリブン経営
	第6講 (1/25)	ゲスト講師からのDX事例紹介
	第7講 (2/3)	DXでよくあるトラブルへの対処方法
	第8講 (2/22)	DX戦略の検討
	第9講 (3/7)	DX戦略発表会
	第10講 (3/23)	

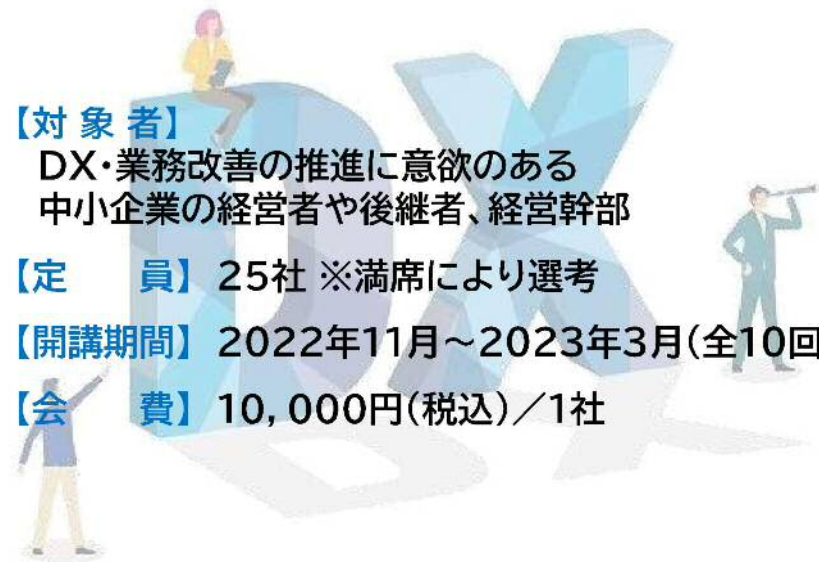
【対象者】

DX・業務改善の推進に意欲のある
中小企業の経営者や後継者、経営幹部

【定員】 25社 ※満席により選考

【開講期間】 2022年11月～2023年3月(全10回)

【会費】 10,000円(税込)／1社



全体講義構成

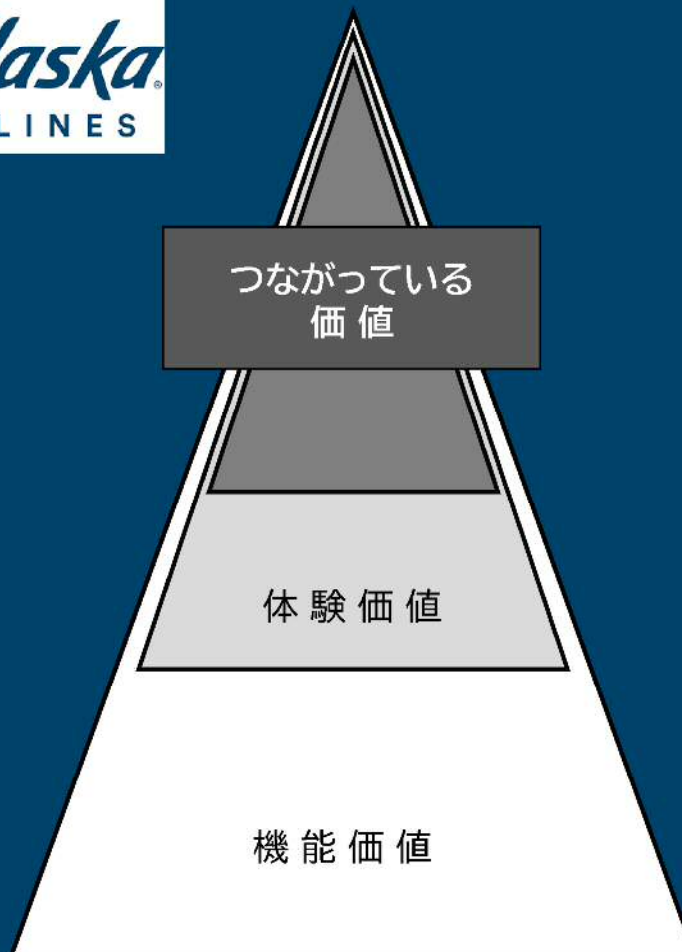
各回 14:00~17:00 会場:浜松商工会議所

カリキュラム	第1講 (11/8)	DXをなぜしないといけないのか?	➡	DXへ向かうための準備体操 デジタルマインドチェンジ
	第2講 (11/22)	2025年の崖を飛び越えるDX体質の作り方		
	第3講 (12/7)	クラウドサービスの選定方法	➡	デジタルテクニカル領域
	第4講 (12/21)	API連携の事例		
	第5講 (1/11)	データドリブン経営	➡	デジタル経営領域
	第6講 (1/25)	ゲスト講師からのDX事例紹介		
	第7講 (2/3)	DXでよくあるトラブルへの対処方法	➡	DX経営戦略発表会
	第8講 (2/22)	DX戦略の検討		
	第9講 (3/7)	DX戦略発表会		
	第10講 (3/23)			



徹底的に機体を軽くする





つながっている(続ける)価値

各搭乗者の「体験価値」を集約(Big Data)し分析することによって、新しい「体験付加価値」を創造
顧客の動向を常に分析することによって新しいニーズを発掘し、各顧客に対しパーソナライズ可能なサービスを提供していく

体験価値

- ・登場前プレミールオーダーシステム
- ・自身の端末でストリーミングサービスを視聴可能
- ・登場後、すぐにWi-Fiに接続

機能価値

- ・目的地まで、快適に乗客を運ぶ

問題解決スキルやコミュニケーション力を重視

経営者層

管理職層

リーダー層

一般社員層

コンセプチュアルスキル
・ロジカルシンキング
・論理的表現力など

ヒューマンスキル
・ヒアリング能力
・プレゼンスキルなど

「ツール」は常に変わる。
道具より、使い方を重視。

テクニカルスキル
・業務知識
・ITスキルなど

□カッツ・モデル

ハーバード大学のロバート・カッツ教授が提唱したマネジメント層に求められる能力に関するモデルです。

経営者の参画・コミットメント、全社へ発信する言語化が重要

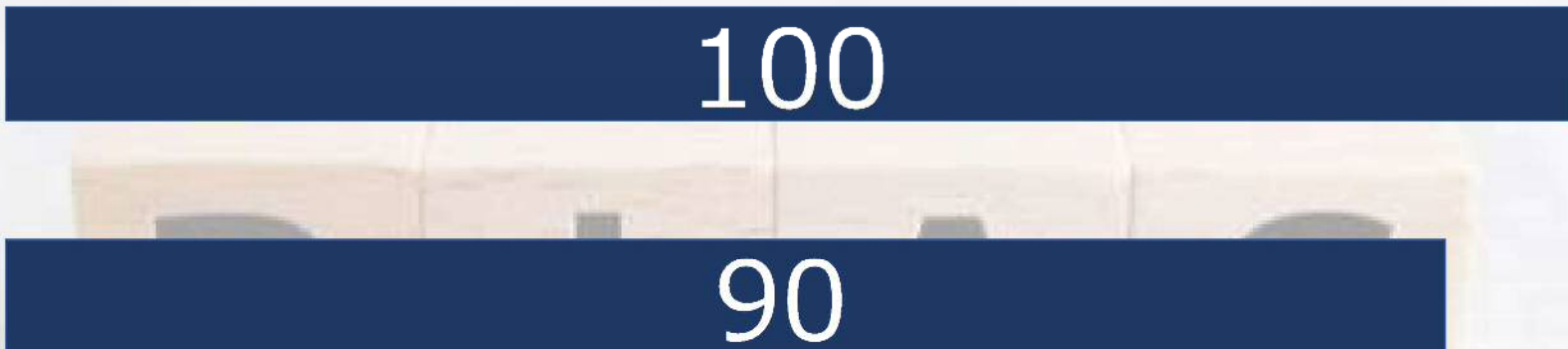
リスキング(学び直す)・リカレント(循環教育)

「これまでの事」から「これからの事」として学び・考え直す

**デジタル化・ペーパーレス化
はき違えていませんか？**

**生産性が上がれば…
タブレットの配布やシステム導入**

結局、効果がありましたか？



100

90

本当に、社員全員が楽になるのでしょうか？

大きなストレスから解放された！利益に直結した！となっていない

生産性を上げる＝1人当たりの利益を上げる

HOP STEP DX

助走期間

【助走期間】

■ DX推進室(チーム)の設置

- 各部門業務内容ヒアリング
- 現状業務の棚卸・業務フロー図作成

■ 断捨離(残す業務・やめる業務)＝圧縮

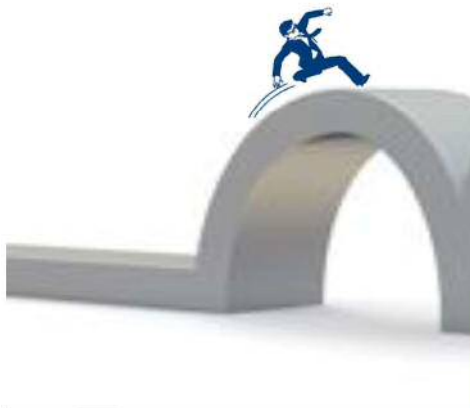
- なぜ必要なのかを考え直す
例)社内連絡は、「メール」でないとダメ？
タイムリーで且つ正確に相手に伝われば良いのでは？
- 残す業務がデジタル化できるかの
例)伝える(報告、連絡、相談)→雑相(雑談・相談)

■ 利益創出までの最短ルートを策定

- 承認ルート
リーダー層・管理者職層の権限範囲を見直す
- 手戻りを可能な限り無くす
・入力フォームの見直し

HOP STEP DX

Hop



【 HOP 】

■ デジタルツールの選定

→年間投資費用試算

対売上高 2.0%以下を想定(スモールスタート時)

■ 費用対効果を再定義

→従来の「IT化」での1対1の関係性ではない

1対nになるような全体最適設計にする

HOP STEP DX

STEP



【 STEP 】

■ デジタルツールの導入

使い方や入力ルールを指導

→想定外の問題に直面する可能性がある

反対勢力

「変わりたくない人」が協力しない・やろうとしない

「あなた」にとって、有益だ という話し方にする

※早く帰れるよ

※計算は機械が自動でしてくれるから、間違わない

※時間に余裕が出来て〇〇できますよ！

全社で浸透するまで試行錯誤を繰り返す。

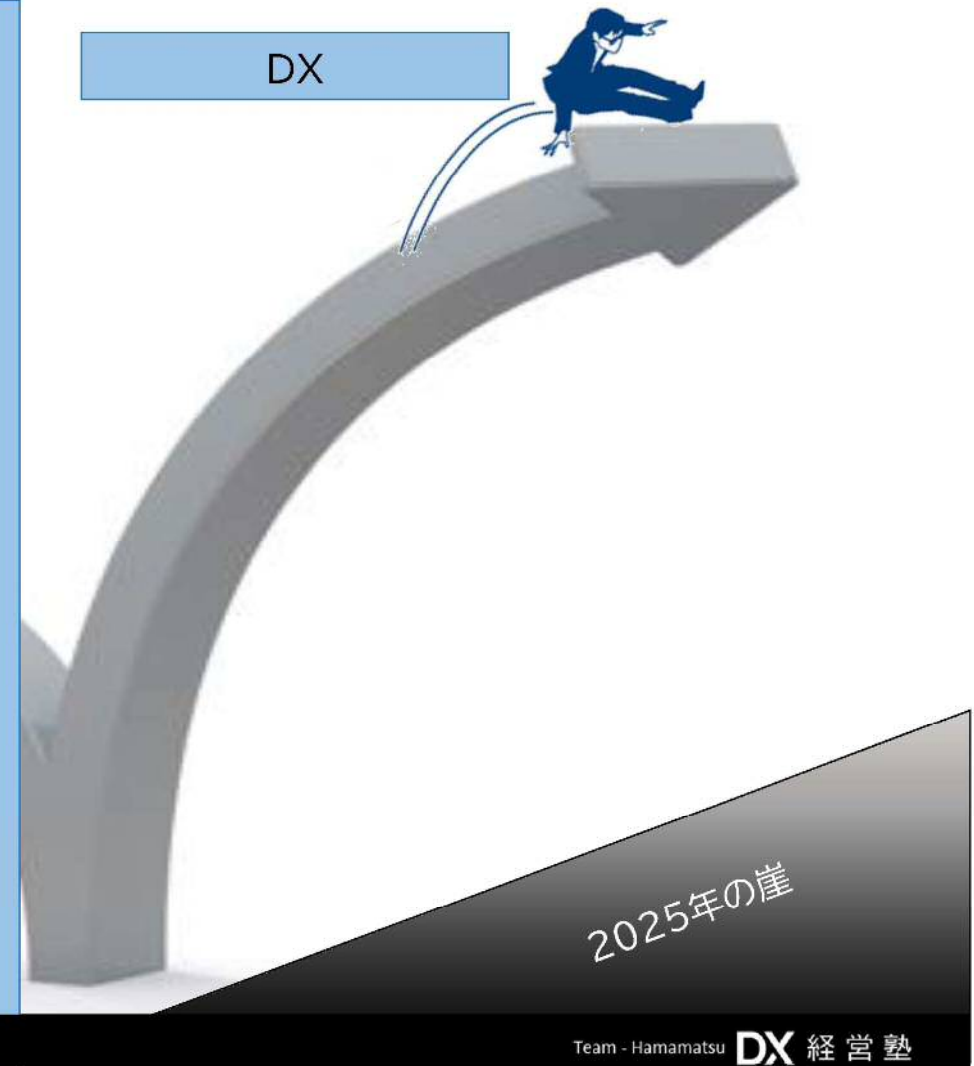
50%の社員に浸透すれば、加速度的に浸透速度は加速していくので、反対勢力の解決は後回し

デジタルで完結する業務システム環境を維持
改善し、その状態を無意識で体質維持が可能となっている

働き方改革・BCP・新型コロナウイルス感染対策
多種多様な法改正を含む「継続した変化」が可能となる

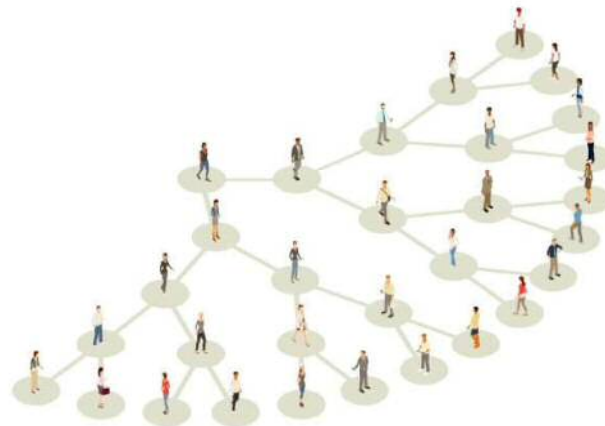
可処分時間が増えることで
各社員、仕事時間外も充実した豊かな生活を提供
「心の余裕」

それが、「DX」の本質であり、変化を繰り返す過程で
「2025年の崖」が発生しない企業体質を維持する



継続性（ロールモデルとコミュニティ）

DX経営塾の成果を
「ロールモデル(お手本)化」して
会員事業所への
取り組み促進を図ります



会員事業所(経営者)間の
「横の繋がり」を構築し、
卒業後も活発な
「意見&情報交換」ができる
環境を整えます



Team - Hamamatsu

DX 経営塾